

佐土原キリスト教会・2021年8月8日・聖日礼拝説教

聖書箇所：ヨハネ福音書 21 章 15～19 節

説教題：わたしを愛するか

ある教会の牧師が仕事で一か月の出張旅行に出かけることになりました。教会の役員も同行していました。牧師は教会を留守にするので、教会のことが心配でなりません。同行の役員に言いました。「私が一か月も留守をすれば、私達の教会はどうなってしまうのでしょうか」。役員は言いました。「それで教会の問題が解決します」。牧師が教会の一番の問題だったのです。私も自分を戒めている話です。

今日の箇所は「牧師就任式」で良く読まれる箇所です。それでこの話を思い出したのですが、ヨハネがこの「福音書」を書いた紀元 90 年頃、ペテロのことを実際に知っている人々は少なくなっていました。そんな中で「裏切り者の代名詞のように言われたペテロが、なぜ、教会のリーダーとして用いられ、あのような大きな働きをしたのか」、ヨハネは、それを書き残す必要を感じてこの箇所を書いたのではないかと思います。その中心的な出来事は、イエス様がペテロを教会の牧会者として任命されたということです。しかし、この記事が「牧会者としての任命」の記事であったとしても、牧師だけに関係のあることではありません。メノナイト教会は「牧会と伝道はすべての教会員の責任」「全ての会員がお互いの牧会者」という立場を取ります。ですから私達全てに語られている箇所です。それだけでなく、この箇所は「私達が信仰の生涯を深く生きるために何が大切なのか」、そういうことも教えてくれる箇所です。2つに分けてお話しします。

1：信仰の生涯を深く生きるために大切なこと～主イエスへの愛

イエス様がペテロを召される時、その資質、条件として問われたのは、「あなたは…わたしを愛しますか」(15)ということでした。「わたしを信じるか」ではなかった、「愛するか」だったのです。しかも「この人たちが(愛する)以上に」(15)と際立った「愛」を求めておられます。なぜ牧会者として任命するために、イエス様への「信仰」ではなく「愛」を求められたのでしょうか。「信じること」と「愛すること」とは違うのでしょうか。

もちろん「信じることは愛すること」という面もあるでしょう。しかし、人間関係においても、「信じること」と「愛すること」とは、やはり少し違うと思います。私はある時期、ご高齢の姉妹と一緒に車で教会に行き帰りしていたことがあります。車の中で色々なことをお話ししましたが、半分以上は息子さんのお話でした。ある時、こう言われました。「親は子供のためには何でもするのよね」。「愛する者のためには、どんな犠牲も覚悟するのだ」ということでしょうか。「愛する」とは「その人のために犠牲をも覚悟する」ということではないでしょうか。これからペテロに与えられる役割は厳しかったのです。彼は教会の礎となって行くのです。その働きは犠牲の伴うものでした。その働きを引き受けるためには、イエス様に対する愛を必要としたのです。ある教会の「40周年記念礼拝」で語られたメッセージです。「40年間、この教会が生きて来たということは、40年間、いつも誰かが苦しみ続けて来た、ということです。これから生きていくということも、たぶん同じことを意味するでしょう」。教会の祝福された歩みも、いつも誰かの犠牲に支えられているのだと思います。あるいは、誰もが何らかの犠牲を払っているかも知れません。しかし、そうであっても、その私達を尚も教会に向かわせるものは何でしょうか。それはイエス様に対する愛ではないでしょうか。ある教会の指導者が言ったそうです。「我々の集会に欠けているのは愛だ。信仰はある、でも愛が欠けている」。色々な思いがあったのでしょうか。でもそれが「イエス様への愛が足りない」ということであるなら、聞くべき言葉だと思います。また私が準備のために読んだ説教には、こんな言葉もありました。「私達の信仰生活に問題があったとしたら、その原因は『自分は信じているが、まだ真実にイエスを愛し切っていない』ところにある」。だからイエス様は、ペテロに「わたしを愛するか」と聞

かれたのだと思います。そして私達にも聞かれていると思います。「あなたはわたしを愛するか」。私達は今朝、この礼拝を通してイエス様に喜ばれる応答をしたいと願うのです。

2: 主イエスを愛する愛を支えるもの

1) 悔い改め

しかし、愛することは難しいことです。イエス様を愛することもきっと難しいことでしょう。しかし、私達のイエス様への愛を支えるものがあります。その1つは「悔い改め」です。

イエス様はペテロに「わたしを愛するか」と3度聞かれます。なぜ3度も問われたのか。言うまでもなく、十字架の時、ペテロが「あなたもイエスの仲間だ」と言われ、3度「イエスなんか知らない」と言ったことと関係があります。イエス様が一番苦しい時に、イエス様への愛を否定した、いやイエス様への愛など無かったことが露呈したのです。しかし、そのペテロの裏切りに対して、復活されたイエス様は、まるで裏切りなどなかったかのように、誰よりも先にペテロに現れて下さったのです。何と大きな慰め、癒しだったのでしょうか。そして、ここでイエス様がペテロに3度問われたのは、3度裏切ったというその罪責感の1つ1つを拭い去り、彼を立たせるためではなかったかと思うのです。

どこかでお聞きになったことがあるかも知れませんが、この「愛する」という言葉は、ギリシャ語原文では「絶対的な愛、神の愛を表現する『アガペー』という言葉の動詞形」と、「人間的な愛(友情のような愛)を表現する『フィーリア』という言葉の動詞形」が使い分けられています。イエス様は最初に「アガペー(の愛)で愛するか」と聞かれ、それに対してペテロは「フィーリア(の愛)で愛することを御存知です」と答えます。2回目も同じです。3回目、イエスは「(それでは)フィーリア(の愛)で愛するか」と聞かれ、ペテロは「フィーリア(の愛)で愛することを御存知です」と答えました。実際イエス様とペテロの対話はアラム語で為されました。アラム語にギリシャ語のような使い分けがあるのかどうか知りません。しかし、もし「ヨハネ福音書」が2つの単語の使い分けによって何かを伝えようとしているのであれば、イエスは「あなたは絶対的な愛でわたしを愛するか」と聞かれ、ペテロは「私はあなたを愛します。しかしあなたも知っている通り、私はあなたを裏切って、見捨てて逃げてしまいました。でもあなたに赦され、愛され、ここにこうしているのです。私はそのような者です。私の愛はそのような弱い愛です。でもその愛で精一杯あなたを愛します」、そう答えたこととなります。その時、ペテロの中では何が起きているのでしょうか。17節に「ペテロは、イエスが三度『あなたはわたしを愛しますか』と言われたので、心を痛めてイエスに言った…」(17)とあります。なぜ彼は心を痛めたのか。3度聞かれることによって、自分が3度、イエス様を裏切ったことを思わずにいらなかったからです。

しかし、そこで何が起こったのか。自分の罪を思うと同時に「こんな者を何事もなかったかのように赦し、尚もキリストの教会の牧会者として任命しようとされる」、そのイエス様の愛と赦しに触れ、彼の中で悔い改めが起こっているのではないのでしょうか。悔い改めるとは、後悔することではありません。後悔するとは、だんだんと下を向くことです。悔い改めは、そうではありません。悔い改めは、神の方にしっかりと向き直すことです。ペテロは、自らの罪の痛みを感じるが故に、その彼を立たせようとされるイエス様の方をしっかりと向き直す、そのプロセスを経験しているのです。それは、痛みと悲しみの伴ったものです。だから簡単に「ハイ、私はあなたを愛します」とは言えない。でも、それだけに、そこには真実があります。そしてその痛み、悲しみ、罪が赦された感謝、それこそイエス様を愛する愛に繋がっているのです。それが「私の愛は弱い愛です。でもその愛で精一杯あなたを愛します」という言葉です。そしてそれが真実なものだったから、3回目にイエスは「その愛で良い、その愛で私を愛するか」と聞いて下さったのです。ペテロが絞り出すようにして「弱い愛ですが…精一杯あなたを愛します」と言った時、「あなたの3回の裏切りは全て拭

い去れた。あなたの愛は新しくされた。安心して立ち上がれ」と言うがごとく「わたしを愛するその『新しい愛』で、わたしの羊を飼いなさい、わたしの羊を愛しなさい、(わたしの教会の牧会者としてあなたを任命する)」と言って下さったのです。

ここだけではない、イエス様は「最も大切な戒め」として、「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』。これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです」(マタイ 22:37~40)と教えられました。私達も、神様を、イエス様を愛するように期待されているのです。その愛はどこから出て来るのでしょうか。私達の愛も、自らの罪に対する痛みと悲しみを伴った悔い改め、そしてその全てが赦され、こんな者が神の子とされた感謝、そこから出て来るのではないのでしょうか。それは、信仰を持つ時だけの話ではありません。カナダで会堂を借りるためにあちこちの教会を訪ね、沢山の牧師とお会いしました。何人かの牧師が同じことを言われました。「私は沢山の失敗をして来た、でも赦されて今がある」。私達の過ちは、信仰者として歩む中で続いて行きます。私もそうです。イエス様を悲しませることも多いです。だから「私の愛は弱いです、何度も、何度も躓く愛です」としか言えません。しかしイエス様は、それを「良し」として下さり、「その愛で良い、その愛で精一杯愛せば良い」と言って下さるのです。そして、イエス様は3回のペテロの失敗を拭い取って下さいましたが、それは何回であっても同じでしょう。私達は、自分で自分を判断して「お前はダメだ」と思うことがあります。しかしイエス様の愛と赦しは、ペテロの思いを遥かに超えたものだったのです。イエス様の愛と赦しは、私達を諦めないのです。だから私達が、罪多く、失敗多く、情けない生き方しか出来なくても、イエスの愛と赦しに信頼して、「こんな弱い愛です。でも私はあなたを愛します」と、何度でも立ち上がれば良いのです。

イエス様は言われました。「少ししか赦されない者は、少ししか愛しません」(ルカ 7:48)。私達も、赦されてあるからこそ、自らの罪を見つめたいのです、そして悔い改めたいのです。そこから私達に、イエス様を愛する愛が生まれ、さらにお互いの牧会者になって行く道が開かれるのです。

2) イエスご自身

イエス様は、イエス様への愛を絞り出すように告白したペテロの告白を受け入れ、そして教会の牧会者と任命されました。そしてその時、ペテロに覚悟を求められました。「あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます」(21:18)。「手を伸ばし」というのは十字架を示す言葉です。申し上げたように、ペテロは教会の土台を据え、大きな働きをしました。それだけに、彼が引き受けた犠牲も大きかったのです。実際、紀元 64 年頃、ネロ帝によるクリスチャン迫害下、「逆さ十字架」につけられ殉教して行ったと言われます。命がけで教会を造るのです、イエス様から託された使命を全うするのです、イエス様への愛に生き抜くことが出来たのです。

ペテロの愛を支えたもの。それは、1つには、イエス様に対する悔い改め、そして感謝があったと思います。また主の復活によって与えられた天の御国への希望もあったでしょう。しかし、ペテロの愛を支えたのは、彼の側の意志とか、力ではなかったと思います。「クオ・ヴァディス」という歴史小説の話ですが…。ローマのクリスチャンに対する迫害が熾烈を極めた時、クリスチャン達はペテロを逃がします。ペテロは街道を逃げます。ところが彼は、向こうからローマに向かって近づいて来る太陽の輝きに似た復活のイエス様に出会います。ペテロはイエス様の足を抱くようにして言います。「主よ。どこにおいでになるのですか」。イエスは言われます。「あなたが私の民を捨てる時、私は再び十字架にかけられるためにローマに行く」。ペテロは起き上がると、きびすを返して

ローマに向かって歩き始めます。そしてローマに帰り、皆を励まし、使命を全うして殉教して行くのです。そのようにイエス様の導きがあって、彼は最後まで、イエス様を愛する愛に、イエス様の使命に生きるのです。

私達は、イエス様の姿を見たり、声を聞いたりすることはないかも知れません。しかし、私達もイエス様を愛する愛を、イエス様から頂けるのです。私は良く、アーミッシュの赦しのお話をします。2006年10月2日、アメリカ・ペンシルベニア州にあるアーミッシュの村の学校に、近所に住む男が猟銃を持って乱入して、5人の子供を殺して、自分も自殺しました。それから数日後、人々がその惨劇以上に衝撃を受けるニュースが流れて来ました。アーミッシュの人達は、事件の6時間後には、犯人の妻の所へ行き—(そこに父親もいましたが)—押し寄せる悲しみを振り払ってこう言ったのです。「私達は彼を赦します。あなた方も家族を亡くしました。悲しみを分かち合いましょう」。最近、映画を見たのですが、映画の中で最も感動的な場面は、墓地で犯人の葬儀が寂しく行われていた時、丘の向こうから喪服を着た大勢のアーミッシュの人達がやって来る場面です。葬儀を報道していたテレビ局のスタッフが「やっぱり来た。何という人達だ」という顔をしている。その前でアーミッシュの人達は、犯人の妻を労わりながら静かに葬儀に参列するのです。暴力に対して憎しみで応えるのではなくて、「赦しと愛」で応えたのです。このことに全米が驚きました。なぜ彼らがそういうことをしたのか。イエス様は言われました。「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です」(ヨハネ 14:21)。彼らはイエス様を愛したのです。だから、イエス様の御言葉に従ったのです。イエス様は「私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました」(マタイ 6:12)という祈りを教えて下さり、そう生きるように教えられました。彼らは、日々その祈りを祈り、その通り生きたのです。その彼らを、イエス様が御言葉を通して支え、聖霊が支えられたのです。私達にも、イエス様を愛する愛を、イエス様ご自身が御言葉を通して下さるのです。イエス様ご自身が、支え、導いて下さるのです。

3: 終わりに

「あなたはわたしを愛するか」。今日、私達も「こんな弱い愛ですが、でも精一杯あなたを愛します」と言いたいのです。その時、イエス様は言って下さいます。「私を愛するなら、あなたの歩みにどんな困難があっても、あなたは私の助けによって、あなたの前に置かれている旅を成し遂げることができます」。